

3) 政策と実行のギャップ

多くの国がカーボンニュートラルを宣言しているが、実効性ある政策や行動が伴っていません。151か国が目標を掲げる一方、実際に行動計画を策定しているのは72か国にとどまっているのが現状となります。

4) 国際協調の難しさ

各国のエネルギー政策、経済状況、政治体制が異なるため、足並みを揃えるのが困難です。炭素国境調整措置 (CBAM) などが貿易摩擦を引き起こす可能性も多く指摘されています。

5) 産業構造の転換の困難さ

鉄鋼、セメント、化学などの温室効果ガス高排出産業の脱炭素化は技術的にも経済的にも困難。既存の設備や雇用への影響も大きく、社会的合意形成が必要となっています。